



患者一人ひとりを大事にする。 まさに友愛の精神で患者さんと、 お医者さんとの間で信頼関係を築いていく

友愛と医療

勅使川原：本日はどうぞよろしくお願いたします。

このMedical & Healthcare PRESS「友愛」という会報誌は、医療に関わる「人」にフォーカスする。そして、知りたいことにコミットするということを主なテーマとして創刊したものとしますが、鳩山先生の掲げる友愛という精神を、改めて認識させていただいて、人にコミットするということで、この友愛との親和性がすごくあるなというふうに思っております。

「自分を大切するからこそ、人に優しくされる」という言葉もあると思うのですが、それは医療にも繋がるなというふうに思っているのですが、いかがお考えでしょうか。

鳩山：おっしゃる通り、私は友愛と言い続けているんですけどね。国会なんかでいうと、何かあざけて笑うような声が聞こえていたんですよ。それでも私は、言い続けているんですけど、やはり今の社会情勢なんかみていると、こういうときだからこそ友愛が大事なんだ、つくづく感じますよね。

ただ、単に友達同士大好きよという話だけいうところなんでしょうね。体づくりというのは、改めて大事だと思います。

鳩山：健康な体づくりというのが大事ですね。そういう意味で、西洋医学と東洋医学。それを合わせた統合医療というものがあるのですが、私は、国会議員時代からその統合医療を進める会の活動をしていました。

西洋医学は、もう病気になるって、如何にしてうまく治療するかというふうな話ですよね。でも東洋医学は、むしろ先ほどから話しているような、如何にして病気になるまいかという、ずっと健康を維持していくにはどうしたらよいかという、漢方なんかもそうなのですが、そういう考えが東洋医学の基になっています。

日本の近代は西洋医学を中心にきましたから、こちらのほうが様々な治療で有利に作用されています。徐々に、東洋医学も入りはじめているようですけど、私は1人の医師が西洋医学と東洋医学の両方をうまくミックスさせて、健康を維持させ、万が一の時にもうまく治療できるというような体制の体づくりが非常に重要ではないかと思えます。

そういう意味で、私はまだ日本の医学は、西洋医学に偏重している部分があるのではないかと感じていて、アメリカのほうがむしろ先に東洋医学を取り入れているというふうに聞いています。



です。それが、少なくとも診療報酬を上げることので、その問題はかなり解消していくことができたので良かったと思うのですが、ただ、今でも、診療報酬という制度が本当にいいのかどうかという論点がされていないんじゃないかなと思うんですよ。

勅使川原：そうですね。そこに何かフォーカスされた議論は、あまり耳にしないですね。

鳩山：そうですね。診療報酬点数を高くするためには、できるだけ患者の方を短い時間で効率よく診察しないといけないという話なんですけれども、例えば、私も自分で体験したわけではないのですが、海外では1人のお医者さんが1人の患者さんの思いとか悩みの話を、じっくりと時間をかけて、何時間も聞いた上で、治療をされるそうなんです。そうすると1人に対しての時間も、例えば30分なり1時間かけるわけですよ。

日本ですと、結果、それでは診療報酬が上がらないんですよ。でも大事なのは、やはり一人一人を大事にする。まさに友愛の精神で、患者さんとお医者さんとの間の信頼関係みたいなものを築いていくのに2分や3分での治療ではないような気がするんですよ。

勅使川原：限られた時間では、なかなかじっくり聞いたり信頼関係を築くのは難しいですね。

鳩山：ですから、どうしても「あなたはなんだ」「じゃあ風邪だね」「ボンとおしまい。みたいなかたになりがちじゃないですか。果たしてそういうことでもいいのかなというね。でも、今の診療報酬制度だとそういう風にしたいほうが効率的で、お医者さんとしても、あるいは医療機関としてもいいわけですよ。

それこそ友愛の心をもって、そういうところの信頼関係をより繋いでいくことができたから、より深い人間関係ができて、病気になる健康な体をどうやってつくるかということ、今よりも、もっと自身でも学ぶようになっていくことができるような気がするんですよ。

どうも今の日本の医療、その診療報酬制度のもとでできている。医療のカタチというのは、このままでいいのかという議論を、本当はもっと、その市民の方からされてみたりとかした利点もうまれます。心を癒すことでも、健康寿命が伸びていて、観光の需要も向上していくという大きな社会が進んでいくという大事な発想だと思います。

岐阜県もとてもいいですよ。大都会にはない、自然や緑に囲まれてが豊かな心を感じ、旬なものを食して、ゆったりとした気分です。アアができると思ったら非常にいいですよ。緑に囲まれるだけでも、空気が綺麗だと健康になりますよね。健康にとって、そのようなツリーズは非常に大事ですよ。

勅使川原：そうですね、自然の中で生活していると、薬に頼らなくても免疫力が高まったりするっていうように、私は感じていて、食事もそうだと思うんですけども、地産地消と言われるものを、その場で食べることで、も元気になるますし、おいしい空気なんかも、そうだなというふうに感じています。

本日は貴重なお話をありがとうございました。



らどうかと思うんですけど。2025年の医療問題について

勅使川原：そうですね。医師や看護師、周りでサポートされる方が、今よりも多くいらっしゃれば、医療もより充実していくのかなと思います。ですが、団塊世代の方が、これから後期高齢者になることによって、さらにシニア層が増えることになってます。そうすると、医療にかかる負担がさらに大きくなって、医療費や、介護費っていうところも増えていくという問題も出てくるんですよ。

さらに、サポートする方々がもっと必要になり、その医療現場の人材不足になっちゃうというところに繋がっていくのが問題だと思えます。この2025年の医療問題についてはいかがお考えでしょうか。

鳩山：医師不足っていう話は、前からあって、さらにこれが加速されていく可能性がります。おっしゃる通り、私のような後期高齢者がどんどん増えていきます。だけど大事なことは、介護されるまでの時間をできるだけ長くすること、すなわちより健康でいらればいいわけですよ。

ですから、それこそ病気になるような生活習慣、健康な体をいかに長く保つかにいうことに、個々の人々がもっと時間をさけば、今おっしゃったような2025年問題で介護あるいは病にかかる人が増えるわけですから、当然そのお医者さんの数が少ないという話も出てくると思いますけど、それを減らすためにも、一人一人の健康をいかに長く維持できるかという方向に、医療や介護が舵を切り前進していくことが大事なんじゃないかなという気がします。

鳩山：今日もウォーキングだけはしてきました。ですが、せいぜい3〜4000歩ぐらいしか歩いたりしていません。腰とか膝のことを考

ウェルネスツリーズについて

勅使川原：そうですね。そのために、やはり一人一人が自分を知ること、というのはすごく大事だと思いますし、何が合うかとか、日常生活の中で、健康を意識をするというのは、すごく大事だと思うのですが、例えばですね、ヘルスツリーズとか、今ではウェルネスツリーズMっていうような活動もすごく頻繁にされています。

私は岐阜出身で、岐阜の観光の一つとしてもウェルネスツリーズをすごく重要視してまして、旅を楽しんでいただくのと同時に、その心も癒されてもらう、そして心からも元気になるというような旅をおすすめしているんですけども、いかがでしょうか。

鳩山：海外から日本に医療を求めてやってくるヘルスツリーズなんかもありますが、ウェルネスツリーズMでは、旅行することによって地域の眠れる観光などを再発掘するとともに、そこにある資源をしっかりと活用していくという

旅を楽しむ、心からも元気になる ウェルネスツリーズを すぐく重要視しています

SEND CHEERS!

医療現場に関わる医療従事者の皆様に向けて

お医者さんや看護師さん、医療従事者の方は、よほど人間に対して、極限的な愛情を持ってないとなかなかやり続けることができないお仕事だなと思っております。精神的にも気遣いが多く、人の病を治そうと相手の気持ちをわかろうとすればするほど、自分自身にそれが跳ね返ったりすることも多いでしょう。それだけに、大変すばらしく献身的なことをなさっている職業だと思ふんですよ。そのような皆様ですの、ただ頑張ってくださいということだけではなくて、そういった方々がより働きがいのあるような職場にいてくための政治、あるいは政府の役割っていうのは相当大きいのではないかと思います。そして大きく変えていかなきゃいけないことがあるんじゃないかと思えます。

鳩山中紀夫

◆インタビュー後記◆

友愛と医療について、深く掘り下げたお話を聞くことができて改めて健康に大切なものは、日々の体づくりなんだと実感いたしました。そして、ヘルスツリーズMや、ウェルネスツリーズMのすすめとして、心身をリセットさせることの大切さを再確認し、これからは健康でいられるように日々を過ごしていきたいです。



勅使川原 郁恵 Ikue Teshigawara

元ショートトラックスピードスケート日本代表。3歳からスケートを始め、中学2年生でショートトラック全日本選手権総合優勝を果たす。その後、女子ショートトラック界のバイオニアとして、1998年長野オリンピック、2002年ソルトレイクシティオリンピック、2006年トリノオリンピックと、3度のオリンピックに出場した。現役引退後は、運動・食・睡眠など「健康」をキーワードとした、健康ウォーキング指導士・ペビーヨガインストラクター・食育インストラクターなど20以上の資格を取得し、ヘルスケアスペシャリストとしてアスリートの健康ライフスタイルを提唱している。現在は一般社団法人ナチュラルボディバランス協会代表理事を務める二児の母。

医療負担を減らすために、はたまた病気になるらないためにという根底は、健康であること

鳩山：すごいですね。やはりウォーキングは基本なのでしょうね。何キロ歩いたのですか？

勅使川原：それは素晴らしいですね。ウォーキングって全身の運動ですし、私も実はですね。ウォーキングの普及活動をさせていたっていて、スポーツ界を引退してから、あるときには日本の五街道である、中山道と甲州街道を、実は歩いたのですが、そういう経験もありまして、やっぱりウォーキングっていうのは、健康に関してもそうですけども自分の体にとって、も心身ともに気持ちもすごく良くなりますし、体もすごく健康になれるなって実感しています。

えると歩きすぎてもいけないと言われてるので、適度な量で止めてはいるのですが、毎日健康維持のために歩いています。私の健康のためにやっていることは、それくらいしかないです。

